

	第 113号
	発行日 令和 7 年 8 月 27 日
	編集/発行 新潟県学校事務研究協議会
	E-メール 227-jimuken@ngt.ed.jp
	新事研 Web https://shinjiken.ngt.ed.jp/



仲間がいる 新事研でつながる

新潟県学校事務研究協議会
会長 上野 智子

「仲間がいる 新事研でつながる」。これは、新採用者向けリーフレットのキャッチコピーです。リーフレットには、「県内の学校事務職員とつながれる！」「市町村を超えたつながり、いろんな仲間とつながることができる」「実践共有、情報共有の場」「学びの機会がいっぱい」「意見交換、新しい発見、学校ではできない経験がここにある！」等とあります。昨年度の合同運営部会ワークショップでの運営部員の声を掲載しました。皆様にとって、新事研とはどんな存在でしょうか。新事研だからこそできることもたくさんあると思います。

会則改正により、今年度の総会から会員全員参加となり、活動については紙面と動画で説明をさせていただきました。まだまだ活動や組織の見直しの途中ですが、今年度は、「学びたいテーマでつながれる仕組みづくり」と新事研からの情報発信の在り方を重点的に検討します。会員のつながりの場を設定し、会員間の実践交流を図っていきたいと考えています。研究大会は開催しませんが、その代わりとして、地区別研修会の内容の充実も検討しています。今年度も引き続き、会員の皆様にも投げかけながら、ともに考え進めていきます。御理解と御協力をお願いいたします。

また、8月7日（木）に北越地区研究大会が富山県で開催され、全事研新潟支部（新事研と新潟市事研合同プロジェクトチーム）が分科会（テーマは「協働から協創へ ～共に創る学校のウェルビーイング～」）を担当しました。分科会発表に向け、チーム一丸となって取り組みました。大会には、新潟県からも大勢の会員が参加し、共に学び交流を深めるよい機会となりました。

新事研は、会員相互の連絡提携を密にし、学校事務の研究、会員の資質向上を図り、学校教育及び教育行政の充実発展に寄与することを目的に活動しています。新事研活動をとおして、会員一人一人が学びを深めることにより、子どもたちの学びに貢献できるようになることを願っています。

最後になりましたが、関係機関の皆様には、今年度もより一層の御指導御支援をお願いいたします。

令和6年度 活動報告

総会で報告がなされた主な内容です。

※決算報告については、総会要項をご覧ください。

【総務部】

新事研W e bを活用し、きかせてB O Xの設置や他支部研究会情報の掲載、便利ソフトの提供を継続した。また、メールマガジンの配信や支部長を通じて全事研の調査・セミナー案内などを周知することによって会員への情報提供を行った。名簿や統計データの作成も円滑に行うことができた。第41回研究大会では、部・チーム間の連携を図りながら準備・運営にあたり、参加者から高い評価を得ることができた。課題としては、実践資料や便利ソフトの応募が少なかったため募集方法や周知の工夫が必要であることや、会報編集の負担軽減と予算削減の両立、新事研W e bの利便性向上などが挙げられた。他にも、研究大会参加申し込み忘れへの対応の負担軽減や分科会経費支出範囲の整理も今後の課題である。また、総会の全会員参加に伴う開催方法の見直しや、会費集金方法の検討も求められている。

【研究部】

第41回研究大会分科会において「主体的な行動を繰り返すための3要素」を提案し、実践共有の場を設定したことで高評価を得た。フィールドワークでも研究調査を行い、研究部だより「CONNECT」にまとめ発行した。「CONNECT」の内容を話題のきっかけとした会員相互の情報交換の場を設定することもできた。また、北越地区富山大会に向け、新潟市学校事務研究協議会と共同研究を開始し、実践・研究交流を推進した。（令和7年度はプロジェクトチームが活動を引き継ぎ、大会での発表を行った）。さらに、実態調査・グループ長調査を実施し、調査結果から抽出した実践事例について実践者へインタビューを行い、ピックアップ&ヒント集で会員に紹介した。課題としては、会員相互の情報交換の場を設定したが、そのためのツールや運用の方法についてさらなる検討が必要であるほか、組織改編に伴い、今後の調査活動の目的・効果・方法の再考が求められている。

【学校事務の手引き作成委員会】

「令和6年度版学校事務の手引き」を条例改正等に対応し発行した。掲載内容を削減し価格を抑え、削減分は新事研W e bに掲載した。また、情報提供シートで寄せられた要望を次年度版に反映検討し、W e b様式の新規掲載・修正にも対応した他、危機管理の観点からデータのバックアップ保存も行った。課題としては、条例改正の対応作業が年度末始めに集中するため委員の負担が大きく、義務教育課等との連携をより密にした計画的な対応が求められる。他にも、教育事務所間の事務取扱い相違の確認や教育事務所ごとに異なる通知様式のW e b掲載要望への対応、W e b様式の修正要望への対応範囲の検討、委員数減少時の分担見直しも課題となった。

【事務主幹等研究研修委員会】

研究大会の講座研修は参集であったため、参加者の様子や反応を把握することができた。また、事務主幹や次期リーダー層を対象とした主査・事務主幹・総括事務主幹研修会を実施し、市町村や職位を超えて課題・改善策を共有する場を提供した。しかし、主査など次期リーダー層の参加率が23%と低く、より関心を持てる研修内容や時期設定の工夫が課題となった。他には、事務長制の推進に関する調査や情報収集が十分に進められなかった点も課題として残った。

【支部長評価】

総会のオンライン開催が定着し、今後は全会員参加型の総会実現に向けた新たな開催方法の検討が求められていた。研究大会は参集型の良さを評価する声が多かった一方で、遠方の会場による移動の負担やすべての分科会を視聴できない不便さへの対応として、ハイブリッド開催やオンライン配信での開催が望まれた。また、会報発行やきかせてB O Xを通じた情報交流が高く評価されたほか、新事研W e bの更新と管理運営の重要性の声も挙がった。全県支部長研修会は、各支部の現状共有や交流の場として有意義であるとの評価があり、グループウェア活用による日常的な情報共有の推進も期待された。さらに、支部や地区別研修の内容共有を通じて支部活動を活性化させることが求められた。

令和7年度 活動方針

総会で示された主な内容です。

※予算については、総会要項をご覧ください。

【上野会長】

会員とともに新事研の役割や組織、活動の在り方について考え、ともに取り組んできた。組織検討3年目となる。会員同士のつながりを大切にし、会員にとって魅力ある組織・持続可能な組織となるよう引き続き検討を進めていく。理事会を中心に議論を深め、共通理解を図りながら各運営部でも検討を進める。今年度は研究大会を開催しないが、支部長会で地区別研修会の内容充実を検討している。支部研修は助成支部を増やし、助成額も増額して予算を計上した。研修機会の拡充によって、会員の実践交流や学びの広がりを支援していく。

今年度は、「学びたいテーマでつながる仕組みづくり（フリー研究チーム）」と情報発信の在り方を重点的に検討する。まずは情報交換の場として、運営部員が連絡用に使用しているサイボウズを活用し、希望者が参加できる形を検討中である。また、これまで支部長をとおして行っていた連絡体制を見直し、公式LINEや新事研Webを使って会員と直接やり取りできる構想も進行中である。ホームページには会員限定ページの設置も検討しており、必要な情報にアクセスしやすい仕組みを整えていく。

運営活動については、「今までこうだったから」という当たり前を見直し、大変だからやめる、減らすということを前提に考えるのではなく、なぜ大変なのかを見極め業務の効果や必要性も一緒に考えながら改善や縮小を柔軟に検討していく。実践を通じて試行錯誤していくという姿勢を大切にしていく。運営部それぞれの役割の中で、一人一人が学び合い、創意工夫を重ねながら、目的達成に向けて協働する組織を目指している。

加えて、総括事務主幹と人材育成で連携を図っていききたい。フリー研究チームへのアドバイザーや支部長会でエリア担当総括事務主幹からアドバイザー的な役割を期待する声もある。「学校事務の手引き」については、今後の在り方について関係機関と協議をしていく。新潟市事研と全事研新潟支部活動を中心に懇談会の実施、北越地区大会への参加など、関係団体と連携しながら活動を展開していく。会費についても適正化を図り、会員の学びやつながりを支えるために必要な予算を確保する。

【総務部】

新たな発想とアイデアで新事研活動の充実と発展に貢献する。新事研Webの更新や公式LINEの導入により会員への情報発信を充実させる。便利ソフトの提供や全事研の調査・セミナー情報の周知も引き続き行っていく。第42回研究大会に向けて、研究部と連携を図り円滑な運営と準備体制の充実を目指す。また、全会員参加の総会の開催方法や会議の運営、会費集金方法について検討し、持続可能な組織運営を考えていく。

【研究部】

「実践をつなぐ」を活動目標とし、会員が知識や学びを共有できる仕組みをつくり、会員一人一人の主体的な実践、会員相互の交流を促進する。また、部員自身も、自ら考え、学び、実践することで、経験を深め、成長につなげられる研究部活動を目指す。実態調査については、今年度は実施せず、調査研究の目的や効果、今後の在り方についてあらためて検討する。第42回研究大会に向けては、総務部と連携・協働し、アイデアを出し合いながら企画・準備を進めていく。活動の様子は、研究部日より「CONNECT」等により発信する。

【学校事務の手引き作成委員会】

今年度も事務の適正化、効率化に寄与する「令和7年度版学校事務の手引き」を発行する。新事研Web掲載様式の更新を進め、活用しやすい内容とすることを重視する。改正対応による作業集中を避けるため、関係機関との連携を密にし、計画的な作業を行う。また、教育事務所間での事務取扱いの違いに対応し、内容の統一性と網羅性を高める。あわせて、委員間での作業分担を見直し、効率化を図りながら会員へのより良い情報提供を目指す。

新旧 理事紹介

今年度は9名が退任並びに就任しました。挨拶とともに、紹介します。

【退任役員】**研究部 副部長****竹内 裕介**

多くの方と出会い、多様な考えに触れることができた二年間でした。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。

**研究部 部長****山田 恵子**

運営部活動と組織改編にかかわる事を通じて、ともに学び活動する意義と良さを再確認でき、このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。

**総務部 部長****高山 良恵**

魅力ある新事研とは…？誰かではなく、みんなが自分事として考え、創っていくものであることを実感した二年間でした。貴重な経験をありがとうございました。

**副会長****田中美和子**

学ぶこと、つながることの大切さを、皆様から教えていただいた三年間でした。温かな御支援に感謝の気持ちでいっぱいです。

【新任役員】**研究部 副部長****坂上 由織**

主体性や学びを大切に、実践をつないでいけるよう努めてまいります。

**総務部 副部長****笹川 裕太**

新事研活動が充実したものであるよう、精一杯務めます。よろしく願いいたします。

**研究部 部長****山崎 貴恵**

部員とともに考え、学び、実践しながら、その過程や成果を皆様と共有していきたいと思えます。

**総務部 部長****池田恵里奈**

会員全員が新事研の活動を楽しめるよう、自分なりに精一杯努めてまいります。

**副会長****丸山 めぐみ**

微力ながら、これからの新事研のために尽力いたします。

新事研役員紹介

新事研活動を支える役員を紹介します。

会 長	上野 智子（上越・城西中）				
副会長	丸山 めぐみ （糸魚川・能生中）		江口 伸子 （十日町・十日町中）		大田 由加 （関川・関川小）
【運営部】					
部	総務部			研究部	
部 長	池田 恵里奈 （佐渡・河原田小）			山崎 貴恵 （三条・栄中央小）	
副部長	阿部 亜希子 （十日町・川西中）			坂上 由織 （新発田・住吉小）	
副部長	笹川 裕太 （南魚沼・大和中）				
部 員	総務チーム	情報チーム	大会チーム	中山 怜奈 （上越・安塚小）	小松 亮太 （見附・見附特別支援）
	伊藤 悦子 （上越・中郷小）	坪井 崇 （小千谷・南小）	藤井 翔平 （上越・大町小）	滝澤 大輔 （上越・城東中）	佐藤 智恵美 （津南・上郷小）
	玉木 美和奈 （三条・下田中）	加藤 陽介 （小千谷・千田中）	中村 有里 （上越・直江津小）	鳥羽 達弥 （糸魚川・青海小）	竹内 雄輝 （佐渡・新穂小）
	押味 大樹 （田上・羽生田小）	齋木 亘 （十日町・松之山小）	佐藤 茜里 （長岡・川口小）	古井 拓 （長岡・上通小）	鶴間 彩鈴 （新発田・紫雲寺小）
	齋藤 純子 （南魚沼・総合支援）	長谷川 眞也 （燕・島上小）	熊倉 良路 （南魚沼・八海中）	小山 桃 （長岡・宮内中）	横山 大介 （阿賀野・水原小）
	菅 紫織 （村上・村上小）	斎藤 昭博 （佐渡・八幡小）	***	保達 直季 （見附・田井小）	***
【特設委員会】					
学校事務の手引き作成委員会					
横田 貴子 （上越・板倉小）		石黒 瑛太 （妙高・新井南小）		青木 太志 （小千谷・総合支援）	
金子 里佳 （上越・三和中）		高井 加奈 （長岡・川崎小）		柳 尚宏 （十日町・ふれあいの丘支援）	
				大宅 浩司 （村上・さんぼく小）	
				曾我 優子 （新発田・佐々木小）	

総括事務主幹紹介

令和7年4月現在、全県で10名に総括事務主幹が発令されています。担当エリアと氏名、所属を紹介します。

担当エリア	氏名	所属名	担当エリア	氏名	所属名
上越・糸魚川	上野 智子	上越・城西中	十日町・津南	江口 伸子	十日町・十日町中
上越・妙高	齊藤 登紀子	上越・有田小	三条・加茂・田上	熊倉 雅明	三条・裏館小
燕・見附・弥彦	阿久津 充	見附・見附小	新発田・聖籠・胎内	今井 典子	胎内・中条小
柏崎・刈羽	堀井 美織	柏崎・第三中	村上・関川・粟島浦	五十嵐 賢子	村上・村上小
長岡・出雲崎	福崎 里美	長岡・南中	阿賀野・五泉・阿賀	清野 由美	五泉・五泉南小

※南魚沼・湯沢エリア、魚沼・小千谷エリア、佐渡エリアは未配置

支部長紹介

各支部のリーダーとして、支部での活動や研究の推進にあたる支部長を紹介します。

支部名	氏名	所属名	支部名	氏名	所属名
① 上 越 支 部	大野 弥生	上越・高志小	⑪ 南 魚 支 部	加藤 潤	南魚沼・浦佐小
② 妙 高 支 部	吉原 裕子	妙高・新井中央小	⑫十日町・津南支部	村山 薫	津南・津南中
③ 糸 魚 川 支 部	室橋 和之	糸魚川・糸魚川東中	⑬燕・弥彦支部	本田 大輝	燕・分水中
④長岡・三島支部	川上 裕之	長岡・東北中	⑭ 佐 渡 支 部	齊數 卓	佐渡・真野中
⑤ 三 条 支 部	土屋 省太	三条・第一中	⑮五泉・阿賀支部	大治 勝雅	五泉・三川中
⑥加茂・田上支部	佐藤 廉	加茂・須田小	⑯村上・岩船支部	宮本 雄輝	村上・村上南小
⑦ 見 附 支 部	下村 初子	見附・今町中	⑰新発田・聖籠支部	高橋 桂	新発田・加治川中
⑧柏崎・刈羽支部	八幡 亮	柏崎・西山中	⑱阿賀野支部	遠藤 慶貴	阿賀野・神山小
⑨ 小 千 谷 支 部	石坂 優太	小千谷・吉谷小	⑲ 胎 内 支 部	阿部 一騎	胎内・築地小
⑩ 魚 沼 支 部	永井 達郎	魚沼・広神中			

功労者表彰

本会に対する功績を讃えて、功労者表彰を行いました。県内の学校事務職員の資質向上に御尽力いただきました。

【宇尾野 智明 様】

本会では総務部長として平成 19 年度から平成 23 年度の 5 年間に在任されました。

【川上 裕之 様】

本会では総務副部長として平成 26 年度の 1 年間、
総務部長として平成 27 年度から平成 30 年度 4 年間、合計 5 年間に在任されました。

【酒井 竜二 様】

本会では研究副部長として平成 25 年度から平成 26 年度の 2 年間、
研究部長として平成 27 年度から令和 2 年度の 6 年間、合計 8 年間に在任されました。

【新井 美由紀 様】

本会では研究副部長として平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間に在任されました。

【清野 由美 様】

本会では副会長として令和 3 年度から令和 5 年度の 3 年間に在任されました。

【田中 美和子 様】

本会では副会長として令和 4 年度から令和 6 年度の 3 年間に在任されました。

【高山 良恵 様】

本会では総務部長として令和 6 年度の 1 年間に在任されました。

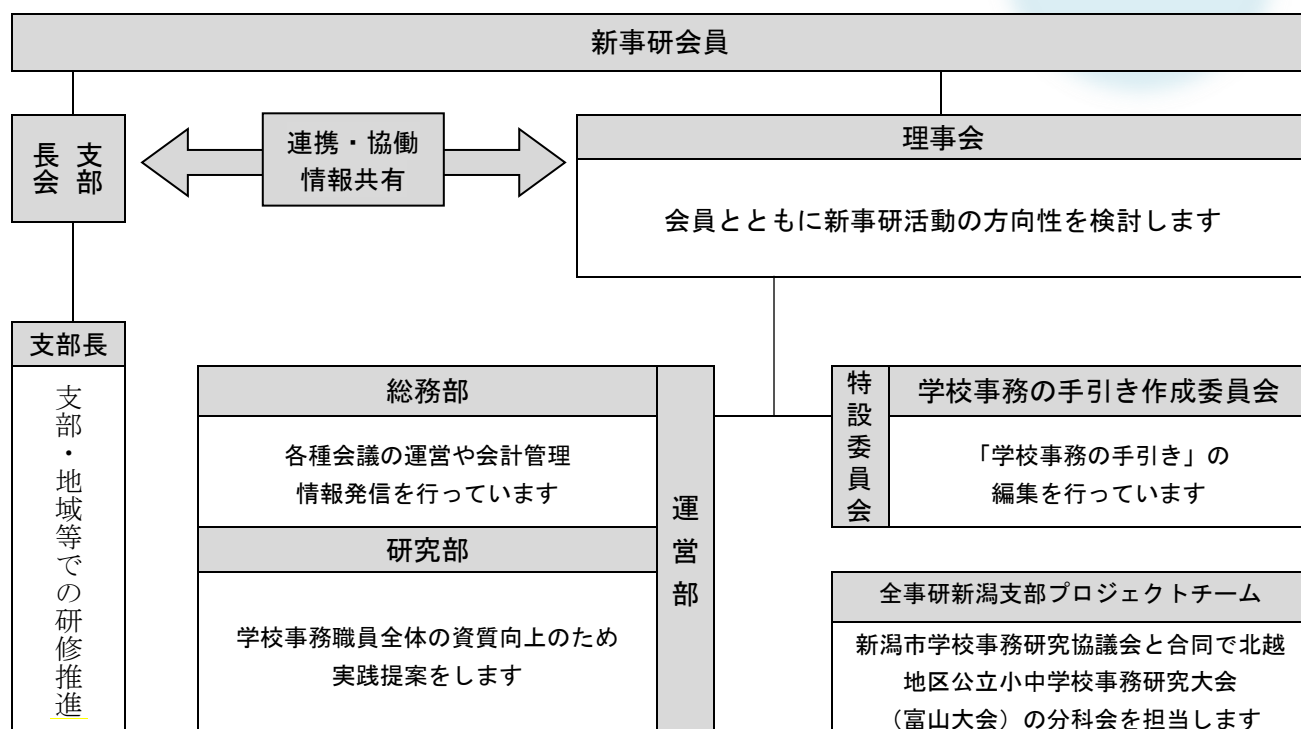
【山田 恵子 様】

本会では研究部長として令和 6 年度の 1 年間に在任されました。

令和 6 年度の総会で表彰規程を改訂したため、令和 5 年度までの規程による表彰対象者も合わせて表彰させていただきました。

新事研活動紹介

学校事務職員ならではの視点を学校運営に生かせるように、年間を通して会員相互の連携・学校事務の研究・会員の資質向上を後押しする活動をしています。



会長、副会長



総務部



研究部



学校事務の手引作成委員会



新事研W e bのお知らせ



※会員専用ページはパスワードを入れてアクセスしてください。

新事研W e bは

- 新事研要覧 ●各種研修会の案内 ●調査統計資料 ●新事研会報
- 学校事務の手引き様式集 ●実践資料 ●便利ソフト

などを掲載しています

実践資料・便利ソフトを収集しています

●こんな情報を収集しています

- ① 実践資料（個人や支部の取組）
- ② 便利ソフト（個人や支部内で作成したもの）

●ここに掲載します

『新事研W e b』→『会員用資料』内

●提供方法

「新事研W e b 提供シート」に必要事項を記入し、提供資料とともに担当までお送りください。
総務部情報チームで内容の確認を行い、新事研W e b に掲載します。



新潟県学校事務研究協議会

総務部情報チーム

U R L : <https://shinjiken.ngt.ed.jp/>

新事研



今年度も会員の皆様の実践の後押しができるよう、運営部一同活動していきたいと思います

【あとがき】 今回は1月13日（火）の発行予定です。

なお、紙媒体での発行はありません。発行時にメルマガ等でお知らせいたします。御承知おきください。